

東日本大地震と引き続き原発事故から1年になろうとしている。寒さ厳しい中で当時の被災者の方々はどんなにつらかったか、透析医療を提供するために自らも被災者であったであろう透析スタッフがいかに苦労し努力したかが本特集の論文からうかがわれ、あらためて頭が下がる思いである。

東北地方はかつてない大雪にも見舞われている。私自身、岩手で生まれ、小学・中学校時代を秋田、宮城、福島、青森で過ごしたので、冬の寒さの厳しさは身にしみている。東北人の粘り強さと復興を信じるとともに、「想定外」と弁明せずとも済むような災害対策を身近なところから始めたい。

先日、私の所属施設が国際的な病院評価機構である Joint Commission International (JCI) の審査を1週間にわたって受けることになった。JCIは審査を通じて、国際的な医療の安全と質改善活

動を行っている。「最善の医療」ときくと、病院の設備、専門医の数、手術件数や成績などを想像しがちであるが、実際に厳しく問われたことは、病院が組織体としてどのように医療安全、医療の質を保証するシステムを構築し実践しているかである。火事を例にとると、その予防体制、避難経路、煙が充満する中で高齢患者が安全に迷うことなく非常口にたどりつけるか、非常口は中から簡単に開けることができるか、一方で非常口を利用した犯罪を防ぐようになっているか、非常口から外に逃げるときにつまづかないような構造になっているか、などを細かくチェックされた。患者やスタッフの安全を守ることができなくてはよい医療は提供できない。透析室内の感染予防や転倒予防も事故対策の重要課題である。日ごろから防災・安全意識を高め、災害対策や災害時医療連携システムにつなげたい。(小松 康宏)

2012年(Vol.28)特集のご案内

- No.① 高齢者医療における透析療法の諸問題 2012〔特大号〕
No.② 糖尿病腎症と血糖コントロール
No.③ 東日本大震災と透析医療〔臨時特大号〕
No. 4 腎不全患者相互の支え合いと自立を支援するーセルフヘルプグループとピアサポート

- No. 5 腹膜透析療法ーポストガイドラインの方向性〔特大号〕
No. 6 透析装置の最前線ー自動化、モニタリング、透析通信

(既刊は○)

臨牀透析® Vol.28 No.3 臨時特大号

© 2012 年 3 月 10 日発行

本号特価 2,625 円

(本体 2,500 円)

年間予約購読料は前金にて弊社あるいは書店宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、弊社または書店までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-64 神保町協和ビル

営業直通電話 (03) 3291-3901 (代) FAX (03) 3291-3904

編集直通電話 (03) 3291-3971 (代) FAX (03) 3291-3377

e-mail dialysis@nmckk.co.jp

URL <http://www.nmckk.co.jp>

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 シナノ印刷株式会社

・ Published by Nihon Medical Center Inc. ©2012. Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は (株) 日本メディカルセンターが保有します。

・ JCOPY (社) 出版者著作権管理機構 委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつと事前に (社) 出版者著作権管理機構 (☎ 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail : info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

■ 広告申込所 / 株式会社 文栄社 〒 113-0033 東京都文京区本郷 3-40-3 電話 (03) 3814-8541